

# 進路だより‘一期一会’

## ～ 今回は、入試の話、、、あれこれ、、、～

“もうすぐ入試だね！”これから先、いろんな人から、こんな風に声をかけられることが多くなると思います。今回は、入試（入学試験）について色々話をしたいと思います。

そもそも‘入学試験（入試）’という言い方は、主に私立高校や高等専門学校に対して使われていて、三重県立高校では、‘入学試験’と言わずに、‘選抜に係る検査’という言い方をします。

さて、入試の方法は、大きく二つに分かれます。‘専願’入試と‘一般’入試です。

- \* ‘専願’・・・受験した学校から、‘合格’をもらったら、必ずその学校に入学するという約束で受験するやり方。他の学校を受験して合格しても、そちらには行けない。
- \* ‘一般’・・・受験して、‘合格’をもらえれば、その中から自分の行きたい学校を選んで、入学することができるやり方。

専願について→ ‘専願’にも色々な形があって、‘推薦（一般、クラブ、自己など）’という形を取る場合や、単なる‘専願’という形を取る場合があります。

‘推薦（自己推薦を除く）’というのは、誰かから（主に学校長）‘あなた’という人物を保証されるわけですから、合格の可能性は高くなります。ただし、世の中に‘絶対’や‘100%確実’ということはありません。さらに、‘推薦’には、推薦基準というものが設けられていることが多く、それをクリアしなければ、‘推薦’に値しなくなり、‘推薦’で受験できないかもしれません。

‘専願’も同じです。‘合格’したら、その学校へ必ず行くという約束で受験するので、‘一般’で受験するよりは有利ですが、‘絶対合格’ということはありません。その学校に入学して、その後三年間、学習についていけるだけの力がないと‘合格’はもらえないかもしれません。

ちなみに、県立高校の‘前期選抜’も‘専願’と考えていいと思います。‘前期選抜’を‘受験’して、‘内定’をもらえたら、他の学校を受験していて、‘合格’をもらったとしても、そちらに行くことはできません。だから、‘前期選抜’と私立高校の‘専願’を同時に受験（検）することはできません。



一般について→ ‘一般’は、日が重なってなければ、何校受験してもらっても構いませんが、どれだけ多く‘合格’をもらっても、自分の体は一つですよ。どこか一校にしに行けません。お金もかかります。常識の範囲で受けて下さい。

## \* 前期選抜の話あれこれ、、、

‘前期選抜’という形は、ずっと昔からあったわけではありません。最初は、‘推薦’という形で始まりました。その中学校で、希望を出してきた生徒の中から、‘推薦’された生徒が、受験できました。高校の科も普通科以外の科に限られていました。年が経つにつれ、少しずつ普通科も‘推薦’受験できるようになりましたが、やはり今でも特別な状況でない限り、普通科は、後期選抜のみという形になっています。やがて、‘推薦’が、誰でも受験できる‘前期選抜’へと変わっていきました。そうすると、人の心理は、“早く進路を決めたい”ってなってきますよね。‘前期選抜’は、多くの学校が、‘面接’と‘作文’という検査方法なので、多くの人が受験して、倍率も高くなり、結果として、成績がよっぽど上位でないと、‘内定’をもらえないという状況になっています。嬉野中学校も、毎年、100人位の人が、挑戦しますが、4割か、多くて5割弱の人しか‘内定’をもらえません。ハードルは、すごく高いです。最近は、‘国語’や‘数学’、‘英語’のテストを課す高校が増えてきました。学力をしっかりとみられるということです。決して楽しい結果は手にできないということですね。ただ、ずっと昔は、県立高校を受けるチャンスは、3月の1回限りだったのが、2回チャンスがあるということなので、私から言わせてもらえば、今のみなさんは、羨ましい限りですよ。



## ～ 前期選抜の受験を希望している人へ～

この進路だよりにも書きましたが、元々は、普通科以外の科に進学希望の人のために作られた制度です。それ故に、進む先の高校では、中学校では習わない科目や、実習などしなければなりません。入学してから、‘こんなはずじゃなかった！’‘こんな勉強するの？’なんてことにならないよう、しっかりとその高校について知っておくこと、そして、3年間続けるという強い意志を持つこと、さらに、なぜ、自分は、そこで勉強したいのか、何をそこで学びたいのか、将来どうしたいのか、ということをよく考えた上で、進学を決意を固めて、‘選抜検査’に臨んでほしいと思います。当然の事ながら、この事は、面接で聞かれますし、高校側が合否を判断する大きな要素でもあります。何よりも、自分の‘その高校で学びたい’という気持ちは、誰にも負けない、という位の気持ちをいつも持ち続けてほしいですね。

**Where there is a will, there is a way !** ですよ。